

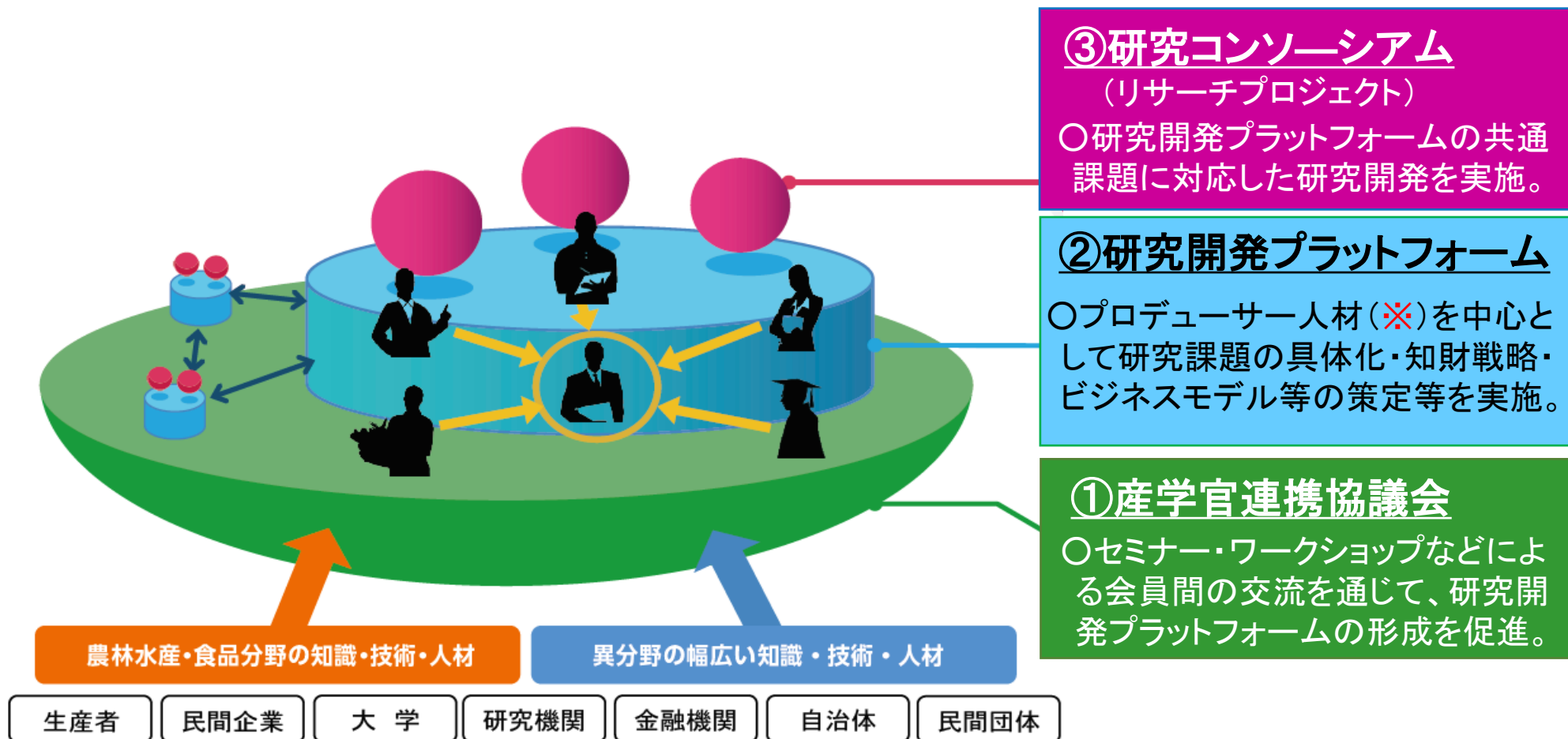
令和3年度活動報告

令和4年2月

農林水産省 農林水産技術会議事務局
研究推進課 産学連携室

産学連携研究の仕組み（「知」の集積と活用の場）

- 「知」の集積と活用の場は、オランダのフードバレー等の産学官が連携したイノベーション創発の仕組みを参考にしながら、我が国における新たな産学連携研究の仕組みとして、平成28年4月から活動を開始。

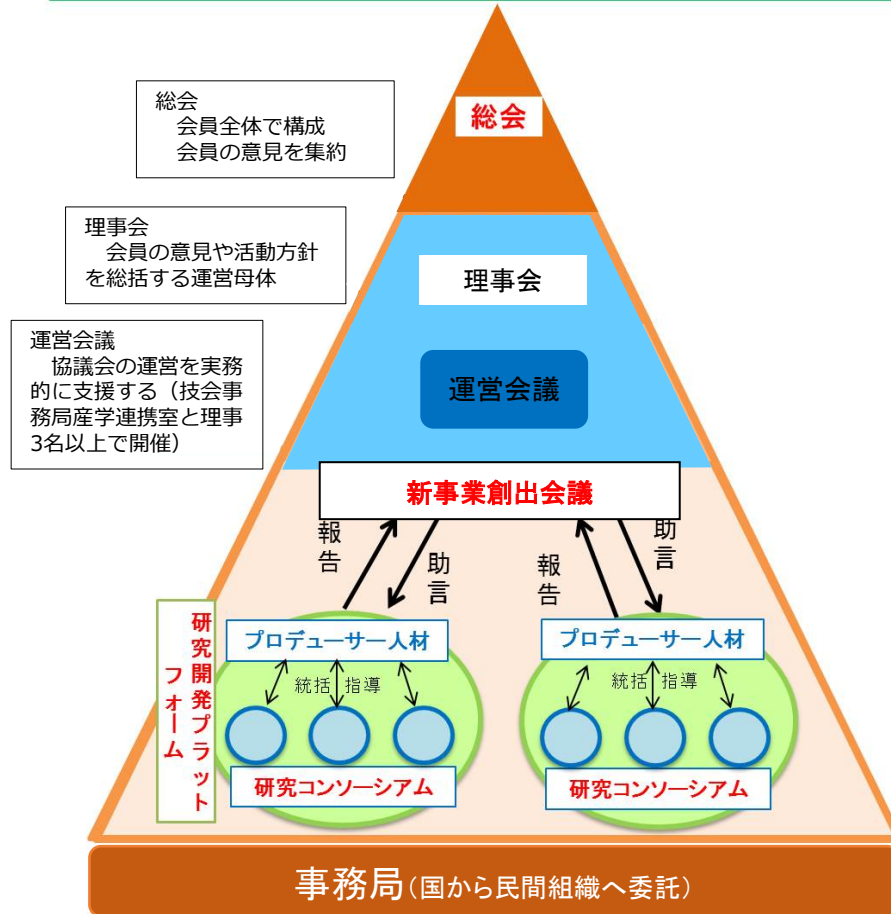


(※)プロデューサー人材とは、民間等での研究開発を通じた商品化・事業化の経験等を有する、**研究開発プラットフォームの執行責任者**

産学官連携協議会の体制について

○ 産学官連携協議会は、令和元年7月の定時総会の決議により、これまでの機能を保持しつつも、より機動的に活動できる体制に変更し、現在、会員の意見を集約する総会のほか、会員の意見や活動方針を総括する理事会、協議会の運営を実務的に支援する運営会議によって運営されている。

「知」の集積と活用の場 産学官連携協議会の体制(イメージ)



理事会

- <会長>
川村 邦明 株式会社前川製作所 顧問
- <副会長>
久間 和生 国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構 理事長
堤 伸浩 全国農学系学部長会議 会長
東京大学大学院農学生命科学研究科長
渡利 広司 国立研究開発法人 産業技術総合研究所
イノベーション推進本部長
- <理事>
稲垣 史則 株式会社島津製作所 常務執行役員
折戸 文夫 国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構 理事
小梶 聡 マルハニチロ株式会社執行役員 開発部長
田中 進 株式会社サラダボウル 代表取締役
長平 彰夫 東北大学名誉教授
立命館大学大学院テクノロジー・マネジメン
ト研究科 教授
松山 旭 キックマン株式会社 取締役常務執行役員
研究開発本部長
横田 修一 有限会社横田農場 代表取締役

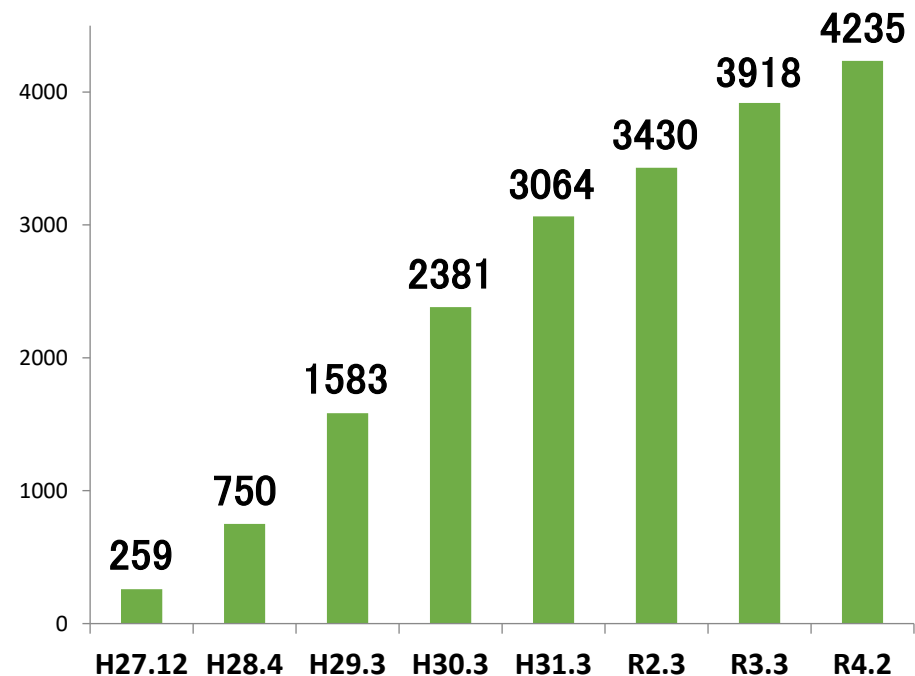
産学官連携協議会について

- 産学官連携協議会は、セミナー・ワークショップ等の相互交流の場を提供し、研究開発プラットフォームの形成やプロデューサー人材の育成に努めてきたところ。
- 協議会には、農林水産業・食品産業だけでなく、電機・精密機器製造業、化学工業など多様な分野から参画。会員数は**4,235**(令和4年2月4日時点)
- 令和4年1月より、海外会員(企業、大学、研究機関等)の募集を開始。

<産学官連携協議会の会員構成>

区分	業種・組織	会員数
法人	農林水産業・食品産業	707
	電機・精密機器製造業等	225
	化学工業等	184
	その他製造業等	290
	卸売・小売業	101
	情報通信業・専門・技術サービス業	597
	金融機関(農林中央金庫、銀行等)	33
	研究関係機関(大学、国研、公設試等)	444
	民間団体(全農他)	288
	行政・自治体(県、市町)	88
	その他(大使館他)	84
個人	農林漁業者等	96
	研究者等	1098
合計		4,235

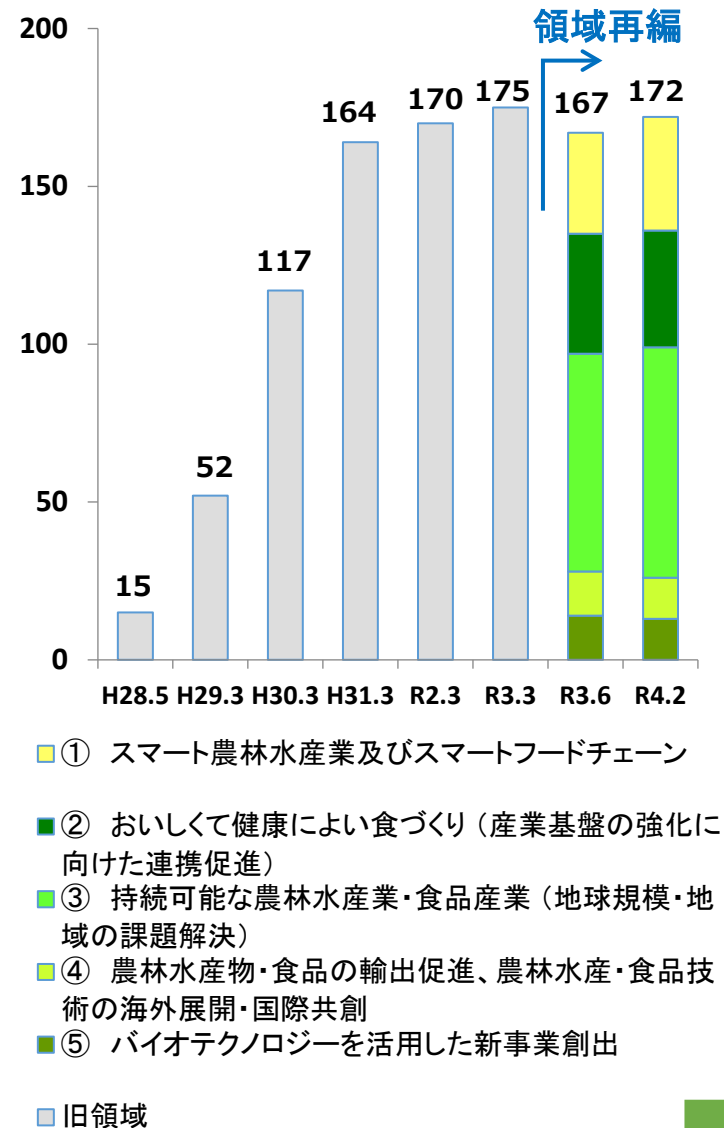
<会員数の推移>



研究開発プラットフォームについて

○令和4年2月4日時点で**172**のプラットフォームが活動中 <研究開発プラットフォーム数の推移>

ターゲットとする産業領域(カテゴリー)	設立数
① スマート農林水産業及びスマートフードチェーン	36
② おいしくて健康によい食づくり (産業基盤の強化に向けた連携促進)	37
③ 持続可能な農林水産業・食品産業 (地球規模・地域の課題解決)	73
④ 農林水産物・食品の輸出促進、 農林水産・食品技術の海外展開・国際共創	13
⑤ バイオテクノロジーを活用した新事業創出	13
合計	172



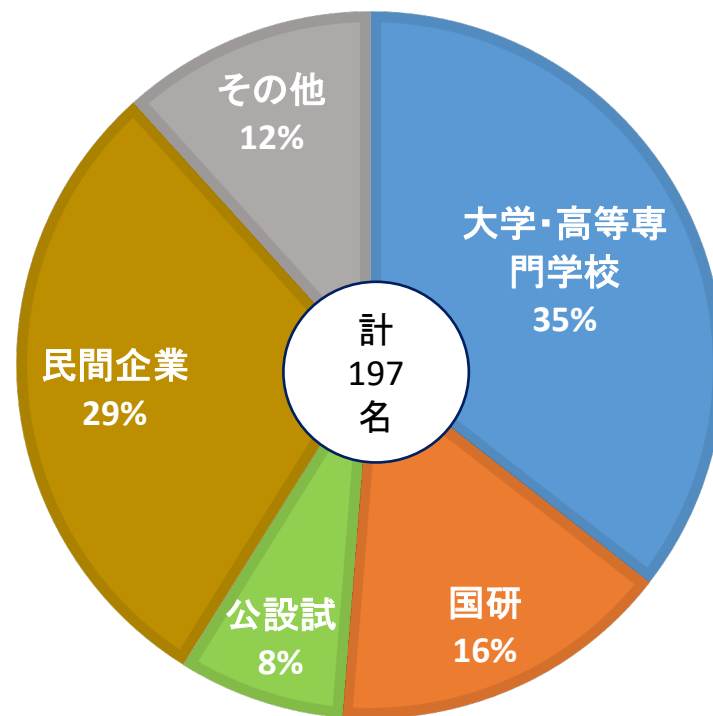
※令和3年度からの第2期では、プラットフォームを5つの「ターゲットとする産業領域」に分類

研究開発プラットフォームのプロデューサーについて

○ 172あるプラットフォームには、197名のプロデューサーが在籍している。そのうち、35%が大学・高専といった教育機関に所属している。(令和4年2月4日時点)

プロデューサーの所属	数
① 大学・高等専門学校	70名
② 国研	31名
③ 公設試験場	15名
④ 民間企業	58名
⑤ その他(一般社団法人、NPO法人等)	23名
合計	197名

プロデューサーの所属



※ 1つのプラットフォームに複数のプロデューサーを置いている場合は、それぞれ計数する。
※ 1人のプロデューサーが複数のプラットフォームのプロデューサーを兼任する場合には、重複してカウントしない。

※令和4年2月4日時点

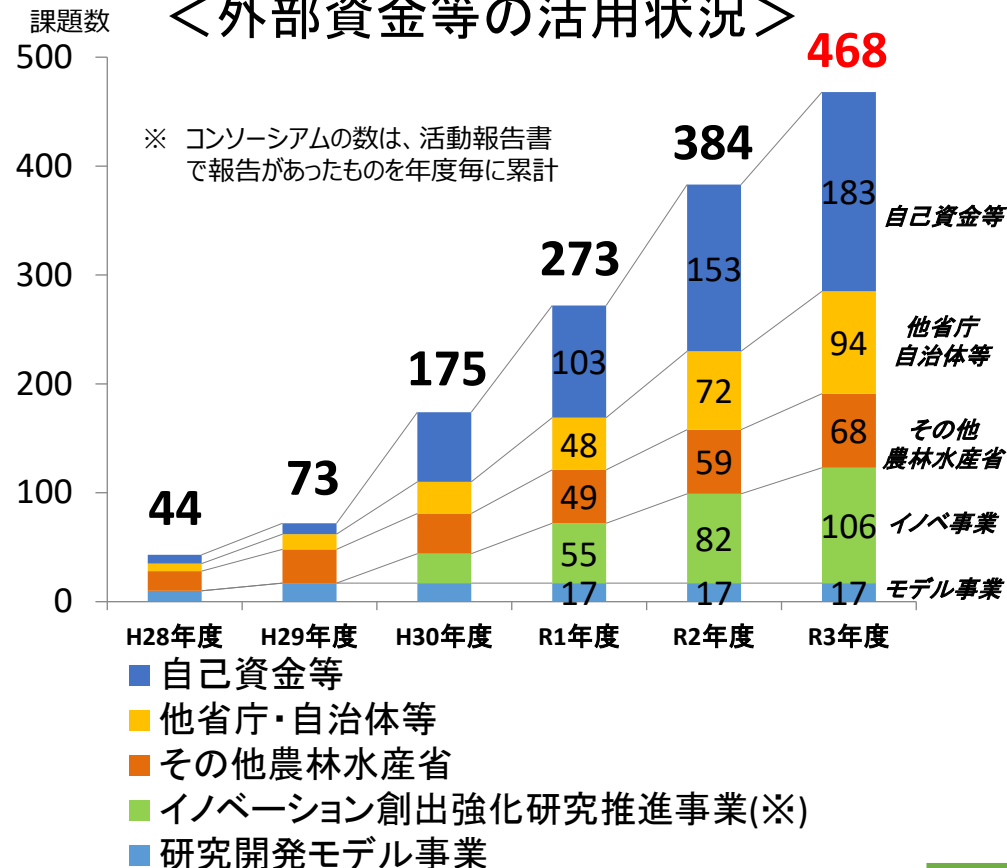
研究コンソーシアムについて

- 「知」の集積と活用の場による研究開発モデル事業において、全17課題を採択(28～29年度)したほか、平成30年度～令和3年度のイノベーション創出強化研究推進事業において、「知」の集積と活用の場の研究コンソーシアムの提案から**106**課題を実施。他省庁を含む他の事業においても研究を実施。
- 令和3年度までに、**468**の研究コンソーシアムが研究を実施又は課題採択。

<研究コンソーシアム集計(産業領域別)>

ターゲットとする産業領域	課題数
① スマート農林水産業及びスマートフードチェーン	73
② おいしくて健康によい食づくり (産業基盤の強化に向けた連携促進)	68
③ 持続可能な農林水産業・食品産業 (地球規模・地域の課題解決)	248
④ 農林水産物・食品の輸出促進、 農林水産・食品技術の海外展開・国際共創	27
⑤ バイオテクノロジーを活用した新事業創出	35
第1期で解散したPF	17
合計	468

<外部資金等の活用状況>



(※) ステージ移行採択課題も含む

令和3年度の産学官連携協議会の活動について

<総会、理事会>

- 6月30日 総会、第1・2回理事会
10月4日 臨時総会
1月26日 第3回理事会
令和4年
3月(予定) 第4回理事会

<運営会議>

- 5月21日 第1回運営会議
8月5日 第2回運営会議
9月15日 第3回運営会議
11月11日 第4回運営会議

<新事業創出会議>

- 5月21日 第1回新事業創出会議
9月15日 第2回新事業創出会議

<PR活動>

- 11月5日 オープンイノベーション・チャレンジピッチ
(農林水産省、経済産業省共催)
11月16日 JFフードサービスバイヤーズ商談会2021
11月24日-26日 アグリビジネス創出フェア2021
令和4年
2月4日 成果報告会

- ・腸内環境・腸内微生物叢を標的とした高機能農林水産物開発PF
- ・植物の活性化による革新的農産物生産技術研究開発PF
- ・「ニーズ指向技術革新による高品質食資源の開発と世界に向けた産業創出」研究開発PF
- ・健康長寿社会の実現に向けたセルフ・フードプランニングPF

<協議会主催イベント> ※主な内容を記載

5月21日 セミナー (第1回新事業創出会議)

- ・「令和2年度プロデューサー活動支援事業(林業)の取組報告」(信州大学)
- ・「『スマート農業新サービス創出』プラットフォームの取組紹介」(JATAFF)
- ・「フィンランドのアグリテック及び協力のご提案」(フィンランド大使館)
- ・「くみずほ」の新たな価値創造に向けた取り組み」(みずほ銀行)

6月30日 セミナー (定時総会)

<トークセッション>「研究開発プラットフォームによる商品化・製品化事例」

- ・香酸柑橘ユコウを中心とした研究開発プラットフォーム
- ・ICTを活用した畜産生産システム開発プラットフォーム
- ・植物工場高機能化研究開発プラットフォーム
- ・キチンナノファイバー研究開発プラットフォーム

9月15日 セミナー (第2回新事業創出会議)

<トークセッション>「好循環を生むプラットフォーム運営とは」

- ・土壌改良による農産物の品質向上と収量増加に関する研究開発PF
- ・ICTでつなげる地域共生アグリ・バリュースペース研究開発PF
- ・水産増養殖産業イノベーション創出研究開発PF

11月1日 ポスターセッション(会場開催)

- ・(基調講演)「研究開発プラットフォームからの製品化の道筋」(折戸理事)
- ・57件のポスターを会場に展示
- ・農林水産省職員による講評会

11月2日 ポスターセッション(オンラインセッション)

- ・10件の事例発表、ブレイクアウトルームによるオンライン参加者交流
- ・農林水産省職員による講評会

1月26日 ステップアップセミナー

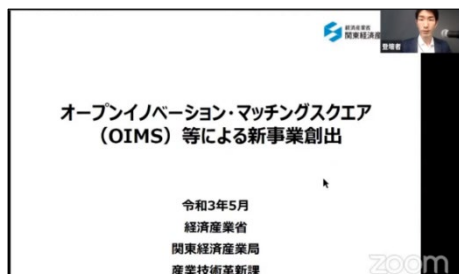
- ・(基調講演)「新製品・新サービス開発における近年の注目すべき動向」(長平理事)
- ・中小機構、JETRO、経済産業省関東経済産業局による支援メニュー紹介

令和3年度の産学官連携協議会の主な活動の紹介①

- 第1回新事業創出会議では、プロデューサー等を対象に、情報提供やミニセミナーを実施。
- 定時総会では、年間活動計画を確認し、理事の選任や規約変更が決議された。また、情報提供やトークセッションも実施。

第1回新事業創出会議(5月21日)

- ・ 関東経済産業局からの情報提供
- ・ 農林水産省からの情報提供:「みどりの食料システム戦略について」
- ・ 協議会会員やプラットフォームのプロデューサーによるミニセミナー



経済産業省関東経済産業局による情報提供
「オープンイノベーション・マッチングスクエア
(OIMS) 等による新事業創出」

フィンランド大使館による情報提供
「フィンランドのアグリテック及び協力のご提案」



定時総会(6月30日)

- ・ 理事選任と規約変更(総会議事確認の電子化対応)
- ・ 関東経済産業局からの情報提供
- ・ 農林水産省からの情報提供:「みどりの食料システム戦略について」
- ・ トークセッション:「研究開発プラットフォームによる商品化・製品化事例」

【登壇プラットフォーム】

- ① 香酸柑橘ユコウを中心とした研究開発プラットフォーム
- ② ICTを活用した畜産生産システム開発プラットフォーム
- ③ 植物工場高機能化研究開発プラットフォーム
- ④ キチンナファイバー研究開発プラットフォーム



令和3年度の産学官連携協議会の主な活動の紹介②

- 第2回新事業創出会議では、プロデューサー等を対象に、情報提供やミニセミナーを実施。
- 臨時総会では、海外会員募集開始のための規約変更が決議された。
- ステップアップセミナーでは、成果の商品化・事業化を支援するプログラムを紹介。

第2回新事業創出会議(9月15日)

- 農林水産省からの情報提供:「研究開発関係の令和4年度予算概算要求の概要について」
- トークセッション:
「好循環を生むプラットフォーム運営とは」

【登壇プラットフォーム】

- ① 土壌改良による農産物の品質向上と収量増加に関する研究開発PF
- ② ICTでつなげる地域共生アグリ・バリュースペース研究開発PF
- ③ 水産増養殖産業イノベーション創出研究開発PF

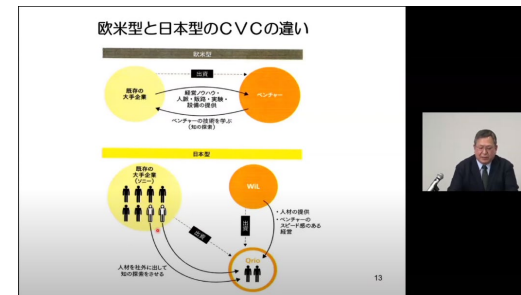


臨時総会(10月4日)

- 海外会員の募集開始に係る規約変更の決議

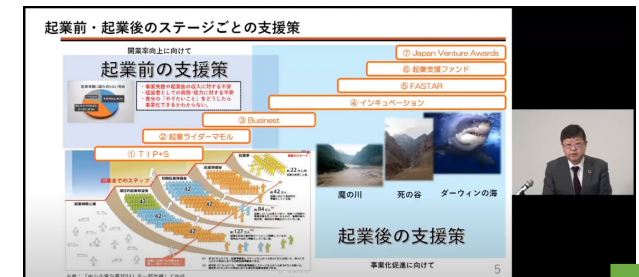
ステップアップセミナー(令和4年1月26日)

- 長平理事基調講演:「新製品・新サービス開発における近年の注目すべき動向」
- 中小企業基盤整備機構、関東経済産業局、日本貿易振興機構による支援メニューの紹介



長平理事による基調講演
「新製品・新サービス開発における
近年の注目すべき動向」

中小企業基盤整備機構
による「中小機構の支援
メニューについて」



令和3年度の産学官連携協議会の主な活動の紹介③

- 11月1日から21日までポスターセッションを開催。期間中、特設Webサイトにてポスターを掲載したほか、1日は会場でのポスター展示、2日はオンラインセッションによる事例発表を実施。
- 1、2日には初の試みとして、農林水産省職員による講評会を開催。

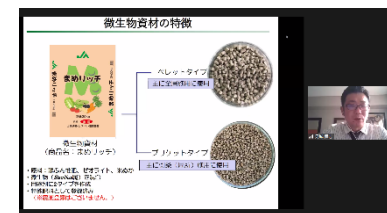
会場展示（11月1日）

- 川村会長、青山局長による挨拶
- 折戸理事による基調講演：「研究開発プラットフォームからの製品化の道筋」
- 57点のポスター展示があり、108人の参加者が交流
- 農林水産省職員による講評会



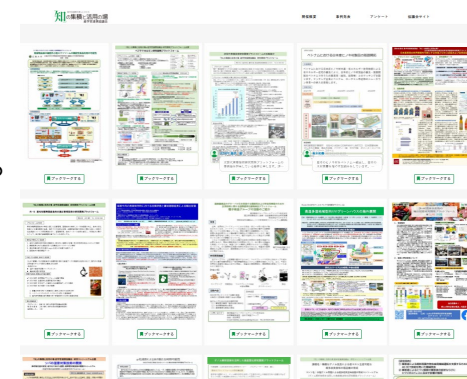
オンラインセッション（11月2日）

- 挨拶・基調講演の録画配信
- 10件の事例発表を218名が視聴
- 農林水産省職員による講評会
- 通常の質疑応答に替えて、発表者と視聴者間の交流の場（ブレイクアウトルーム）を提供



特設Webサイト（11月1日～21日）

- 99件のポスターを掲載
- のべ2,238人が来訪し、合計17,534回ポスター閲覧。



令和3年度の産学官連携協議会の主な活動の紹介④

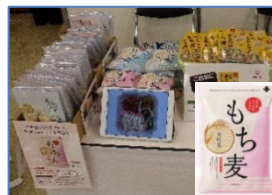
- 研究開発プラットフォームの成果の商品化・事業化を支援するため、JFフードバイヤーズ商談会に出展。4つのプラットフォームから商品サンプルや試食も含めて成果を展示。
- アグリビジネス創出フェアでは、セミナーで産学官連携協議会の取組の紹介をするとともに、協議会のブースでプラットフォームの研究成果等を展示。また、15のプラットフォームがブース出展。

JFフードサービスバイヤーズ商談会（11月16日）

- ・ サプライヤー112社が外食や小売等のバイヤーに提案
- ・ 知の集積からは以下の4プラットフォームが出展

○健康長寿社会の実現に向けたセルフ・フードプランニングPF

食後の血糖値上昇をおだやかにする、国産大麦100%、もち性大麦の新品種「キラリモチ」



○植物工場高機能化研究開発PF

美味しさそのままに、カリウムの摂取制限がある人でも食べることができる、カリウム分を40%カットしたメロン「しまね夢メロン」



○香酸柑橘ユコウを中心とした研究開発PF

徳島県が誇る4種の柑橘のうち、優れた機能性（腸内細菌バランスの是正、口腔環境を整える抗菌性等）を有するユコウを活用した加工食品



○水産増養殖産業イノベーション創出PF

輸入飼料の高騰への対策として、宮城県産の飼料米を配合した飼料「ぎん太郎」で養殖したギンザケ「みやぎサーモン(刺身・スモーク)」



アグリビジネス創出フェア2021（11月24日～26日）

- ・ 協議会のブースで、研究成果を紹介するポスターの展示や協議会リーフレットの配布を実施。多くの来場者に「知」の集積と活用場の場についてのPRを行った。
- ・ メインステージで行われたセミナーでは、当協議会の取組について紹介したほか、プラットフォームのプロデューサーより具体的な研究や商品化事例についての講演、農林水産省産学連携室の事業である「スタートアップ総合支援プログラム」についての話題提供等を行った。



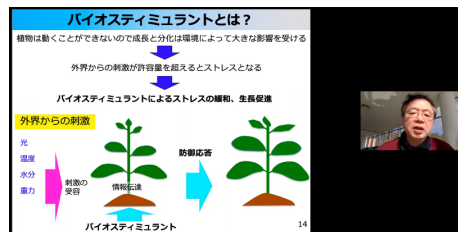
令和3年度の産学官連携協議会の主な活動の紹介⑤

- 成果報告会では、報道関係者も招いて商品化前後の開発事例を持つ4つの研究開発プラットフォームから、最新の成果を発表。
- 成果の発信と農業生産者や異分野のビジネスパーソンへの認知度向上のため、記事を作成。

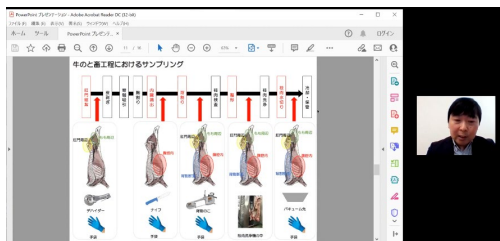
成果報告会（2月4日）

- 報道関係者や会員以外の方々も招いて開催
- 4つの研究開発プラットフォームから成果発表
 - ① 『バイオスティミュラント資材「ストリキ」の開発』
(植物の活性化による革新的農産物生産技術研究開発PF)
 - ② 『ケルセチン高含有タマネギについて』
(健康長寿社会の実現に向けたセルフ・フードプランニングPF)
 - ③ 『異分野連携研究とその成果～牛肉の賞味期限延長に関する研究～』
(「ニーズ指向技術革新による高品質食資源の開発と世界に向けた産業創出」研究開発PF)
 - ④ 『腸内フローラ検査「Flora Scan」について』
(腸内環境・腸内微生物叢を標的にした高機能農林水産物開発PF)

『バイオスティミュラント資材「ストリキ」の開発』
(植物の活性化による革新的農産物生産技術研究開発PF)



『異分野連携研究とその成果～牛肉の賞味期限延長に関する研究～』(「ニーズ指向技術革新による高品質食資源の開発と世界に向けた産業創出」研究開発PF)



タイアップ記事作成

＜マイナビ農業＞

- 生産者と密着した活動をしている2つのプラットフォームについて、研究者と生産者を同時に取材して記事を作成

- ① ICTでつなげる地域共生アグリ・バリュースペース研究開発PF
- ② ICTを活用した畜産生産システム開発PF



＜東洋経済＞

- 「知」の集積と活用場の概要について紹介するとともに、企業が活躍している研究開発プラットフォームについて、プロデューサーと企業担当者を同時取材して記事を作成。



健康長寿社会の実現に向けたセルフ・フードプランニングプラットフォーム

令和3年度の産学官連携協議会の主な活動の紹介⑥

海外展開に向けた活動について

- 在京大使館への「知」の集積と活用の場の周知活動を進めた結果、アジア・太平洋州と欧州を中心に**65大使館**が入会（令和4年2月4日時点）。
- ASEAN+3農林大臣会合特別高級実務レベル会合（8月24日開催）の議題として取り上げられた。
- ポーランド、ベルギー及びベトナム大使館との共催イベントを開催。

ポーランド大使館との共催イベント

- ・ 令和3年6月21日
- ・ 農林水産技術の発表を通じたネットワーキング機会の創出
- ・ ポーランド本国の関心の高い研究領域について日本側から発表



WARSAW-TOKYO INNOVATION BRIDGE:
SMART-AGRICULTURE

Icons: Cow, Farmer, Pig

Online Seminar

June 21st (Monday):
17:00 - 18:30 (Japan)
10:00 - 11:30 (Poland)

ベルギー大使館との共催イベント

- ・ 令和3年6月24日
- ・ 大使館を会場にリアル/オンライン併用のハイブリッド形式で開催
- ・ 日本側から畜産、水産養殖および代替肉の官能評価に関する研究成果の紹介



Agritech Seminar

**INVEST
IN BELGIUM**

Thursday 24 June 2021

第2期(令和3~7年度)基本方針について①

- 「知」の集積と活用の方は、平成28年度の活動開始から令和2年度までの5年間を第1期と位置づけ、多様な分野が交流できるオープン・イノベーションの場としての充実が図られた。
- 令和3年度からの第2期では、第1期で充実した「知」の集積と活用の方を活用し、アフターコロナにも対応した、研究成果の商品化・事業化等に向けた重点的な支援を行い、イノベーション創出による我が国の農林水産・食品産業の競争力強化を推進する。

1 新たに取り組むこと

①会員、プラットフォームの一斉更新と支援の集中

第1期の終期に会員、プラットフォームの活動継続の意思を確認し、継続の意思のある会員、プラットフォームに対して支援を行う。

②スタートアップエコシステムの創生

革新的な技術開発や開発された技術を活用した新事業創出を目指すベンチャー企業の参画を促し、農林水産・食品分野におけるスタートアップエコシステムの創生を目指す。また、事業化・産業化に向けてアクセラレーターやメンターによる併走支援を検討する。

③スマート農業の推進

スマート農業の社会実装やすそ野拡大に貢献していくため、スマート農機のシェアや作業受委託等のスマート農業関連サービス産業に関するプラットフォーム活動が活発に展開されるよう支援する。

④海外市場への展開促進

試行的に取り組んできた、海外大学等との共催マッチングセミナーの開催等の取組を推し進め、研究開発プラットフォームの成果の海外展開を支援する取組を本格化させる。

第2期(令和3~7年度)基本方針について②

2 見直すこと

①プラットフォームの分類の一新

- ・ 研究成果の事業化・商品化等に向けた重点的な支援を行うため、研究領域によるカテゴリー分けを廃し、以下の「ターゲットとする産業領域」によるカテゴリー分けを行う。

<これまでのカテゴリー>

当面推進する主な研究領域

- ① 日本食・食産業のグローバル展開
- ② 健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出
- ③ 農林水産業の情報産業化と生産システムの革新
- ④ 新たな生物系素材産業の創出
- ⑤ 次世代水産増養殖業の創出
- ⑥ 世界の種苗産業における日本イニシアチブの実現

発展的
見直し

<新たなカテゴリー>

ターゲットとする産業領域

- ① スマート農林水産業及びスマートフードチェーン
- ② おいしくて健康によい食づくり（産業基盤の強化に向けた連携促進）
- ③ 持続可能な農林水産業・食品産業（地球規模・地域の課題解決）
- ④ 農林水産物・食品の輸出促進、農林水産・食品技術の海外展開・国際共創
- ⑤ バイオテクノロジーを活用した新事業創出

②研究開発プラットフォームの活動類型の見直し

- ・ 研究開発プラットフォームの活動を動的に把握するため、毎年度末の活動報告では、コンビニ型等の3つの類型から、研究から事業化までのどのフェーズにいるのか、フェーズが移行したのかについての報告とする。

第2期(令和3~7年度)基本方針について③

3 引き続き取り組むこと

①3層構造の維持とプロデューサー人材の育成

- ・ 「産学官連携協議会」、「研究開発プラットフォーム」、「研究開発コンソーシアム」の3層構造を維持。
- ・ 研究成果を新たな商品化・事業化へプロデュースできるプロデューサーへの支援、意欲のある若手人材などの次世代プロデューサーの育成を推進。
- ・ 新たに内閣府主導の下、各省庁が連携して推進している国際バイオコミュニティ拠点で活躍できるプロデューサー人材の育成・支援を行う。

②知的財産の保護

- ・ 研究成果の知的財産を適切に保護しながら、『「知」の集積と活用』から生み出された知的財産が適切に保護・活用されるよう、支援・啓発を図る。

③広報活動の強化

- ・ 第1期においては、優良な活動を展開している研究開発プラットフォームの活動事例についてウェブサイトや農業者向け月刊誌等において積極的に発信してきたが、第2期においても、引き続き広報活動を強化していく。

④外部有識者による活動評価

- ・ 第2期においても引き続き、外部有識者で構成される評価委員会を開催し、毎年度末にその年度の評価を行い、不断に活動の改善や見直しを行うこととする。特に、第2期開始後3年目を中間評価、5年目を期末評価として位置づけ、新たな施策の展開方向を検討する。

4 その他

- ・ オープンイノベーションの推進には、多様なステークホルダーの参画が重要であることから、参画を促すため引き続き会費は徴収せず、農林水産省が推進する開かれた産学官連携の場として協議会を運営していく。

研究コンソーシアムについて(イノベーション創出強化研究推進事業)

令和3年度イノベーション創出強化研究推進事業 採択課題一覧

課題名	研究開発プラットフォーム名	代表機関
【基礎研究ステージ】		
輸出促進のための生鮮水産物の品質制御と鮮度の“見える化”技術の開発	産業技術の活用による革新的農林水産業研究開発プラットフォーム	公益財団法人函館地域産業振興財団(北海道立工業技術センター)
小規模木質バイオマス発電の安定稼働に資するエネルギー・マテリアルの総合的利用を目的とした基盤技術の創出	地域創生に資する森林資源・木材の需要拡大に向けた研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人森林研究・整備機構
農薬の連続合成ー連続微粒子化技術の創出による高機能化	低価格農薬を実現する革新的生産プロセス研究開発プラットフォーム	東京大学
難病リゾクトニア病の防除に向けた植物免疫バイオスティミュラントの開発	ペプチドホルモン研究開発プラットフォーム	岡山大学
さまざまな農作物のハイブリッド種子生産の効率化と品種創出の加速化を目指した新技術開発	次世代育種技術研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
【応用研究ステージ】		
細胞質雄性不稔性トマトを利用した新規F1採種技術の展開	次世代育種技術研究開発プラットフォーム	筑波大学
二年生テンサイの次世代型高速育種基盤の構築と黄化病抵抗性の高速導入実証	特産作物の技術開発による高度利用プラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
省力・大規模化と収穫・出荷期間の大幅拡大を可能とするタマネギセット栽培体系の構築	「東北農業のイノベーション技術創造」研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
鶏卵市場拡大に向けた卵の認知機能改善研究と付加価値鶏卵の開発	農食連携プラットフォーム連合	東京大学
【開発研究ステージ】		
電動ロボットによるスマートぶどう栽培システムの開発	ロバスト農林水産工学研究開発プラットフォーム	北海道大学
スクミリンゴガイの被害撲滅に向けた総合的管理技術の革新および防除支援システムの開発	SDGsに貢献する新たな植物保護技術研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
精緻なゲノム改良による低コスト生産可能な超多収良食味水稲品種の育成	ゲノム解析技術を活用した食産業活性化研究開発プラットフォーム	公益財団法人岩手生物工学研究センター
アジアモンスーン地域でのイチゴ栽培技術の確立	Society5.0におけるファームコンプレックス研究開発プラットフォーム	株式会社ソーラーフィールズ

研究コンソーシアムについて(イノベーション創出強化研究推進事業)

令和3年度イノベーション創出強化研究推進事業 ステージ移行課題一覧

課題名	研究開発プラットフォーム名	代表機関
【基礎研究ステージ】 → 【応用研究ステージ】		
トルコギキョウ立枯病抵抗性等有用形質遺伝子座の同定によるピラミディング育種システムの開発	花き遺伝育種・生産流通利用研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
マダコ養殖の事業化に向けた飼育技術の高度化と普及	水産増養殖産業イノベーション創出プラットフォーム	国立研究開発法人水産研究・教育機構
宿主因子遺伝子への変異導入によるウイルス抵抗性トマトの創出	次世代育種技術研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
高機能プロモーターゲノム編集技術の化学生物学的イノベーションによるイネ・コムギ・ダイズの種子収量増産に関する開発研究	次世代育種技術研究開発プラットフォーム	京都大学大学院生命科学研究科
【応用研究ステージ】 → 【開発研究ステージ】		
森林画像情報にAIを活用し林業DXを現場実装するためのWebアプリの実用化	スマート林業研究開発プラットフォーム	金沢工業大学
優良品種作出と種苗供給の安定化による国産ワカメ養殖のレジリエンス強化と生産増大	水産増養殖産業イノベーション創出プラットフォーム	国立研究開発法人水産研究・教育機構
食味に優れた大型雌ウナギ生産技術の確立と雌化技術のチョウザメへの応用	水産増養殖産業イノベーション創出プラットフォーム	愛知県水産試験場
わが国の稲作のイノベーションを実現する初冬直播き栽培法の確立	新品種育種法・新栽培法開発加速プラットフォーム	岩手大学農学部
種子イチゴ安定生産技術の確立で日本ブランドを世界へ！ ～次世代型種子イチゴによる経営安定化と働き方改革の実現～	次世代育種技術による品種開発推進プラットフォーム	福岡県農林業総合試験場

(参考) 研究開発モデル事業の評価について

採択年度	課題名	研究開発プラットフォーム名	代表機関	研究期間					評価		
				H28	H29	H30	R1	R2	中間評価	終了時評価	
H28年	アミノ酸の代謝制御シグナルを利用した高品質食肉の研究開発とそのグローバル展開	ニーズ指向技術革新による高品質食資源の開発と世界に向けた産業創出研究開発プラットフォーム	国立大学法人東京大学 大学院農学生命科学研究科			B		B	B	B	
	高付加価値日本食の開発とそのグローバル展開	科学的根拠に基づく高付加価値日本食・食産業研究開発プラットフォーム	国立大学法人東北大学			B		B	B	B	
	機能的野菜を用いた腸内フローラ解析による生体恒常性維持効果の実証研究	腸内環境・腸内微生物叢を標的とした高機能農林水産物開発プラットフォーム	京都府立医科大学			B		C	B	C	
	農林水産・食品産業の情報化と生産システムの革新を推進するアジアモン・ソメテル植物工場システムの開発	Society5.0におけるファームコンプレックス研究開発プラットフォーム	三菱ケミカル(株)			B		A	B	A	
	高度インテリジェントロボットハンドによる自動箱詰めの実現	リアルハプティクス応用農作業機械研究開発プラットフォーム	シブヤ精機(株)		B			B	B	B	
	森林資源を有効活用した革新的新素材の創成と応用の開拓	農林水産業のためのナノテクノロジーを用いた新素材開発・新用途開発研究開発プラットフォーム	国立大学法人信州大学 カーボン科学研究所			B		B	B	B	
	複合部材を活用した中層・大規模ツーバイフォー建築の拡大による林業の成長産業化	中層・大規模木造建築推進のための研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人 森林研究・整備機構			B		A	B	A	
	革新的技術を集約した次世代型閉鎖循環式陸上養殖生産システムの開発と日本固有種サクラマス類の最高級ブランドの創出	水産増養殖産業イノベーション創出プラットフォーム	マルハニチロ(株)			B		A	B	A	
	糖鎖ナノバイオテクノロジーを基盤とした家畜家禽ウイルスの迅速高感度検査法の確立・普及とワクチン製造技術開発	革新的ウイルス対策技術研究開発プラットフォーム	国立大学法人鹿児島大学 大学院理工学研究科		D			B	D	B	
	農業水利施設ストックマネジメントの高度化に関する技術開発	ストックマネジメント効率化研究開発プラットフォーム	国際航業(株)		A			A	A	A	
H29年	過冷却促進技術による農産物の革新的保存・流通技術の開発	食品の革新的保存・流通技術研究開発プラットフォーム	関西大学					C	C	C	C
	低価格農業を実現する革新的生産プロセスの開発	低価格農業を実現する革新的生産プロセス研究開発プラットフォーム	日産化学工業(株)			B		A	B	A	
	高付加価値野菜品種ごとに適した栽培条件を作出できるAI-ロボット温室の開発	次世代育種技術研究開発プラットフォーム	筑波大学			B		B	B	B	
	海鞘(ホヤ)ブラズマローゲンの機能的食品への応用研究	科学的根拠に基づく高付加価値日本食・食産業研究開発プラットフォーム	東北大学			B		B	B	B	
	大規模沖合養殖システム実用化研究	Society5.0におけるファームコンプレックス研究開発プラットフォーム	新日鉄住金エンジニアリング(株)			B		A	B	A	
	脳機能改善作用を有する機能的食品開発	健康長寿社会の実現に向けたセルフ・フードプランニングプラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構			B		B	B	B	
	農産物のグローバルコールドチェーン網を実現させる高鮮度保持システムの研究開発	農林水産物の輸出促進研究開発プラットフォーム@九州・沖縄	日通商事(株)					B	中間評価 無し	B	